

12 漢方を中心とした処方にて

肉眼的血尿が消失した遊走腎の1例

宇治徳洲会病院 泌尿器科¹⁾、静岡県立総合病院 泌尿器科²⁾

山崎 真実¹⁾、吉村 耕治²⁾

【症例報告】

症例は52歳、男性。X年5月から肉眼的血尿を自覚し近位受診。膀胱鏡にて右尿管口から出血を認めるものの、造影CT上血尿の原因となる所見を認めず、またトラネキサム酸投与にても血尿が改善されないため、原因精査・加療目的で同年7月に当科紹介初診となった。身体所見：身長190.5cm、体重69.2 kgと痩せ型、検尿所見：赤血球 >100/HPF。患者の話では、肉体労働者で最近体重が落ちてきているとのこと、また朝起床時には血尿を認めないことが多く、日中から血尿が出現し始めるとのことであった。以上の所見より、右側遊走腎を疑い、再度造影CTを撮影するとともにCTの後に臥位と立位でKUBを撮影し、右腎が立位により2椎体下降していることを確認、遊走腎による腎出血と診断した。患者に腎固定術による根本的治療を勧めるも、保存的加療を希望されたため、同年8月トラネキサム酸、猪苓湯、黄連解毒湯の3剤併用療法を開始。4週間後受診時に症状の改善を認めたため、猪苓湯を芎帰膠艾湯に変更した。更に4週間後に来院された際に、血尿が消失したとのことであったので、8週間分を処方。次回来院時に、8週間前に処方した薬剤を飲まずに経過を見ていたものの症状が再発しなかったとのことであったので、終診とした。

【考察】

本患者は、視診上痩せ型の虚証であることは明らかであったが、その他脈診や腹診などの漢方的所見をとっているわけではない。黄連解毒湯は出典は外台秘要で瘀血、実証などが投与目標となる一方、芎帰膠艾湯は出典は金匱要略で瘀血、虚証などが投与目標となるが、近年の本研究会ではこの2剤を組み合わせることで尿路出血に使用している報告がなされており、今回それに準じて処方を行なったところ著効した。本処方の組み合わせは、患者の証と関係なく処方、内服させることで、尿路出血を改善させる可能性があるため、念頭におくべき処方だと考えられた。